

報道機関各位

熊本大学

日本学術振興会科学研究費補助金研究成果公開シンポジウム

「いま、アッコンが面白い！ータネ・ムシ圧痕が語る先史・古代の農とくらしー」を開催！

熊本大学文学部小畑研究室は、日本学術振興会科学研究費補助金研究成果公開シンポジウム「いま、アッコンが面白い！ータネ・ムシ圧痕が語る先史・古代の農とくらしー」を開催いたします。

縄文時代や弥生時代の土器についてのタネやムシなどの痕跡をもとに、当時の農耕のあり方や人々の暮らしぶりなどを復元する「圧痕法」と呼ばれる画期的な方法によって、近年これまでよくわかっていなかった新たな考古学的な事実が数多くわかってきました。本シンポジウムでは、それらの話題を皆様に紹介するとともに、本研究法の現状と未来について考えます。

ついては、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしく願いいたします。

記

- 【日 時】平成28年2月14日（日）9：30～16：50
- 【場 所】福岡市博物館講堂 福岡市早良区百道浜3丁目1-1
- 【対 象】一般の方（興味があるかたはどなたでも）
- 【参加費】無料
- 【申込方法】事前申込み不要

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

【お問い合わせ先】

熊本大学文学部 小畑研究室

担当：小畑 弘己

TEL：096-342-2423

平成24～27年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)
「先端技術を用いた東アジアにおける農耕伝播と受容過程の学際的研究」(課題番号2424032)

日本学術振興会科学研究費補助金研究成果公開シンポジウム

日時 平成28年 **2月14日(日)** 9:30～16:50

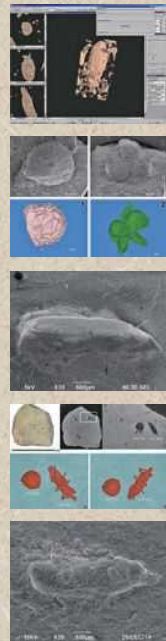
場所 **福岡市博物館 講堂** 〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目1-1

縄文時代や弥生時代の土器についてタネやムシなどの痕跡をもとに、当時の農耕のあり方や人々の暮らしなどを復元する「圧痕法」と呼ばれる画期的な方法によって、近年これまでよくわかっていなかった新たな考古学的な事実が数多くわかってきました。本シンポジウムではそれらの話題を皆様にご紹介するとともに、本研究法の現状と未来について考えます。
どうぞお気軽にお越しください。

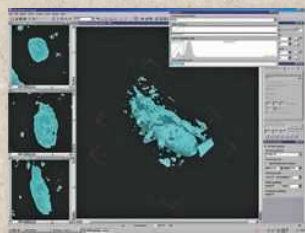
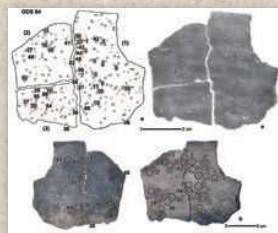
**土器は
先史時代の
タイムカプセル**

プログラム

- 9:30 **開会**
- 9:40～10:40 **講演**
「植物学と考古学」 鈴木 三男 (東北大学植物園名誉教授)
- 10:40～11:00 **発表**
(1) イントロダクション
「アッコン(圧痕)とはなにか」 小畑 弘己
- 11:00～11:30 (2) 圧痕法による研究成果
「土器からわかる暮らしの道具」 真邊 彩
～11:40 <コメント> 鈴木 三男
- 11:40～12:10 「縄文人が栽培した植物はなに?」 佐々木 由香
～12:20 <コメント> 小畑 弘己
- 12:20～13:20 **昼食**
- 13:20～13:50 「イネ・アワ・キビはいつ来て
どのように栽培されたのか」 中沢 道彦
～14:00 <コメント> 宮地 聡一郎
- 14:00～14:30 「縄文人の家に棲みついたムシたち」 小畑 弘己
～14:40 <コメント> 宮ノ下 明大
- 14:40～15:10 (3) 圧痕を科学する「圧痕のタフォノミー」
「タネの圧痕はなぜついたのか」 遠藤 英子
～15:20 <コメント> 櫛原 功一
- 15:20～15:50 「タネの形はどのように決まるか「種子圧痕の同定法」」
百原 新
～16:00 <コメント> 佐々木 由香
- 16:10～16:40 **討論会**
「圧痕法の過去・現在・未来
—土器圧痕は何を意味し、何をどこまで明らかにできるのか—」
発表者全員
- 16:50 **閉会**



**土器圧痕が
明らかにした
新事実の数々**



〈主催〉熊本大学文学部 小畑研究室 〈共催〉九州古代種子研究会

【お問い合わせ先】熊本大学文学部 小畑研究室 TEL.096-342-2423

「タネ・ムシ圧痕が語る先史・古代の農とくらし」
いま、アッコンが面白い!

**参加費
無料**